

日本発達心理学会第35回大会
2024年3月6日(大阪国際交流センター)
丸山 慎^{*1}・金箱 淳一^{*2}・澤水 真央[#]
(^{*1}駒沢女子大学人間総合学群・^{*2}神戸芸術工科大学芸術工学部)

音のエコロジーを共同的に学ぶ 「集音楽器」を導入した子どもの音楽活動における変化とその意味

【目的】

本研究の目的は、ヤマハ音楽振興会が全国の幼稚園・保育園を対象に展開している正課音楽プログラムの活性化を目指して開発した創作楽器の利用可能性を検証することである。この音楽プログラムは、ヤマハの音楽教室講師が各園に向き、その指導のもとで歌唱や鑑賞、リズム活動、そして音づくりをテーマとした遊び等を行うなかで、子どもの「音・音楽への好奇心や探求心」や「豊かな想像力と表現力、社会性」を育むことを目指すものである。本研究では特に「身近な物から出る音に興味を持つ」および「身近な物から音を作り出すことを楽しむ」ことを目標とする部分に焦点を当てた。

本研究に先立ち、丸山・金箱・澤水(2022)は創作楽器の試作版を用いた予備検証を行い、創作楽器の導入によって「音に耳を澄ませて、静かに集中する時間」が生み出され、音に対する参加児たちの探索活動が促進されたことを報告した。しかし一方で、創作楽器の技術的な課題も明らかになった。そこで本研究では、創作楽器の機能をアップデートし、その教具としての利用可能性を再度検証することにしたのである。

【方法】

研究協力者:事業所内保育施設に通園する3歳児6名(女児4名, 男児2名), 4-5歳児4名(男女2名ずつ), 音楽プログラムを指導する講師1名および担当保育士2名。なお, 参加児のうち1名(男児・5歳)は上述の予備検証(丸山・金箱・澤水, 2022)への参加経験があった。

調査日時・場所:2023年2月10・17・24日(計3日間)・事業所内保育施設(浜松市)の保育室。

使用器材:創作楽器「マイカス(Mycas)」, 動画呈示用タブレット, ビデオカメラ, 音を発生させるアイテム類(かまぼこ板, ビニール袋, ペットボトル等), 楽器(ハンドドラム, カスタネット等)。

創作楽器「マイカス」について:本研究の第2著者が開発した集音機能を備えた創作楽器である。形状は一般的なマラカスを模したものであり, 本体に集音マイク, 再生用スピーカー, SDカードリーダー, マイクロコンピューターを内蔵し, 録音・再生・保存ができる。幼児でも持ち運びができ, 好きな音を録音した後, マラカスを振るように本体を動かすと音が再生される機能を持つ。

実施手続き:初回は参加児に1台ずつマイカスを持たせ, 講師が予め録音していた音を再生させることでマイカスに親しませた。2回目は参加児に各々マイカスを持たせ, 室内を自由に探索したり, 音を発生させるアイテムや楽器を用いたりしながら音集めを行った。3回目は動画(森に棲む生き物の様子を描いたもの。再生時間1分20秒)を消音して再生し, 動画の内容にあう音をつけていく活動を行った。所要時間は各回共通で3歳児クラス20分, 4-5歳クラス30分であった。音楽講師と担当保育士にはアンケート調査への回答を依頼した。

【結果】

参加児たちはマイカスの操作にもすぐに慣れ, 積極的に音集めを行っていた。記録された音声ファイルの総数は254個であり, そのうち102個が「子どもの声」, 92個が「モノで生成した音」であった。また他児が集めた音を聴いたり, 動画と音があったときには互いに笑顔になったりするなど, 共同的に音遊びを行っていた。音楽講師・保育士のアンケートでは, マイカスは「自分の声や自分で見つけた音を録音して何度でも聴ける」という一般の楽器にはない特徴をもち, 参加児が高い関心をもって音を生成する行為を楽しんでいたこと, 他児が録音した音を集中して聴いていたこと, マイカスの振り方にもこだわりが生じていたこと(縦に振る, 斜めに振る等)といった肯定的な評価が得られた。

【考察】

音はそれを生成する事象の運動を伴う。その運動は、音の知覚にとって重要な生態学的事実を特徴づける(Gibson, 1966)。つまり参加児たちは、マイカスの導入によって自ら音を出し、それらの音を他児と共に注意深く聴きあう機会を数多く体験することで、音のエコロジーについての学習を共同的に深めていったと考えられる。このような意味で、マイカスは音楽プログラムの目標達成を促し、子どもの音への興味・探索を持続させ、音への理解を深める教具としての可能性が示されたといえる。

【謝辞・付記】 本研究の実施にあたり、ご協力をいただきました皆様に心より御礼を申し上げます。本研究は JSPS 科研費 21K02416(研究代表者:丸山 慎)の助成を受けて実施したものです。

【文献】 Gibson, J. J. (1966). *The senses considered as perceptual systems*. Greenwood Press. (ギブソン, J. J. 佐々木正人・古山宣洋・三嶋博之(監訳) (2011). 生態学的知覚システム:感性をとらえなおす東京大学出版会)
丸山 慎・金箱淳一・澤水真央(2022). 音の生態学的事実についての教育:「集音」楽器による子どもの音楽活動の試み 認知科学, 29, 630-649, <https://doi.org/10.11225/cs.2022.046>